

▼今回のランナー



岡部信幸

おかべのぶゆき●山形県上市市出身。1988年人文学専攻科修了。学芸員として齋藤茂吉記念館に5年間勤務の後に山形美術館へ。郷土の作家からロシアアヴァンギャルドまで、幅広いジャンルの企画力に定評がある。

Yamadai SEIKA Relay



山大聖火リレー

熟練の成果

心理学への興味から人文学部文学科(当時)に入学した岡部信幸さんだったが、2年次の専攻を決める段階になって抽象絵画への関心が高まり、美学美術史を専攻。美や美術作品の時代背景や作家研究などを行う分野で、岡部さんは特にロシア・アヴァンギャルドやバウハウスのデザインに強く惹かれたという。将来の仕事に対するビジョンはなく、授業、図書館、書店、レコード店を往復する毎日。長期休暇に入ると好きな作品鑑賞のために展覧会を巡ることが多かった。そんな中、展覧会などを企画する学芸員という職業があることを知り、俄然、目指すべき方向が定まった。人文学部文学科卒業後、専門性を高めるために人文学専攻科哲学コースで1年間学び、地元上市市の齋藤茂吉記念館の学芸員を経て、山形美術館の学芸員に着任。以後、学芸課長として20年以上にわたって同美術館の企画・運営を担っている。

とりわけ岡部さんの学芸員としての手腕を物語る実績が、2008年の「太田三郎一日々」展。全国の県立美術館など有力美術館140館が加盟する全国美術館連絡協議会の美術館表彰「奨励賞」を受賞したのだ。しかも、美術館や博物館は、通常10名前後の学芸員で運営されているのに対して山形美術館はわずか2名体制で成し遂げた快挙。「短期間でいろんな経験ができるので成長は早いですよ」と苦笑いの岡部さん。今後も郷土作家の作品やフランス近代絵画など、収蔵品を生かした展覧会や他の美術館との共同巡回展など、魅力あふれる企画展をバランスよく展開していく。さらに、美術館をより身近な空間として老若男女に親んでもらえるようにワークショップやギャラリートークなどにも力を入れていく考えだ。

本学では、人文学部、地域教育文化学部、理学部で学芸員の資格取得が可能のため岡部さんのように優秀な学芸員をたくさん輩出している。先輩方のような活躍は、後輩たちの歩む未来を照らす光となるに違いない。



山形美術館の常設展示コーナーでは、フランス近代絵画など、珠玉の美術作品をいつでも鑑賞することができる。

多彩な企画展で幅広い層を美術館へと誘い ふるさと山形の芸術文化の発展に大いに貢献。

岡部信幸 山形美術館 副館長・学芸課長



米沢市出身の画家、小池隆英の代表作約50点を展示した企画展で巨大な作品群の前にギャラリートークを繰り広げる岡部さん。

複数の時間
time specificity
岡部信幸

岡部さんにとっての
山形大学とは?